

# MEIJIMURA

明治村だより Vol.81 2015 Autumn



CONTENTS	錦絵にググッと迫ると 文明開化が見えてくる	2
	語り継ぐ建築	5
	札幌電話交換局常設展示リニューアル	6
	秋の催しもの	8
	A La Meiji-mura	10

## 明治にぎわい ストリート2丁目「レンガ通り」

新登場!



### カード迷路 ぐるり森 大冒険



頭と身体をつかって楽しみながら学べる大人気アトラクション「カード迷路 ぐるり森大冒険」が明治村オリジナル版で登場! 謎を解いて迷路を進み、明治村でしか手に入らないオリジナルキャラクターカードをゲット!

会場/東松家住宅横  
料金/一人400円  
(未就学児は無料)

注意事項/※未就学児の参加には保護者の付き添い(有料)が必要です。  
※車椅子、ベビーカーは迷路内ではご利用いただけません。  
※天候などによって休業する場合があります。



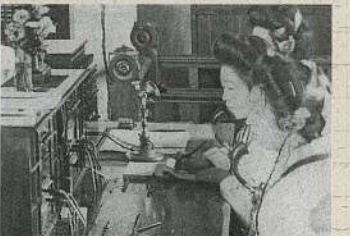
## 札幌電話交換局 展示リニューアル

### つなげる「こえ」、つながる「きおく」

電話機の歴史や電話交換の仕組みを実演も交えて紹介します。懐かしの黒電話で通話体験もしていただけます。

電話交換機の実演(12月6日まで)明治時代に使用された電話機や交換機に触れることができる、電話交換機の実演を行います。

平日/①11:00~②13:00~  
土日祝/①13:00~②15:00~  
<各回約15分>



デルビル甲号磁石式電話機(新型) 交換室の様子(大正時代)



表紙錦絵/東京海運橋町為換座五階之図 明治5(1872)年 一躍斎国輝画

訂正:第80号 4ページ「長崎居留地二十五番館」保存修理工事 寄付募集要項 5行目、「日本初の…」→「関西初の…」

平成27年9月30日発行  
「明治村だより」第81号(平成27年秋)

発行 博物館明治村  
〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地  
電話(0568)67-0314  
http://www.meijimura.com

製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第82号発行のお知らせ  
発行時期 平成27年12月中旬(予定)  
申込方法 「明治村だより」第82号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円切手とともに封書にてお申し込み下さい。



特別展

# 錦絵にググツと迫ると 文明開化が見えてくる

会場／三重県庁舎 9月12日(土)~12月6日(日)

博物館明治村では開村50周年記念事業の一環として、「錦絵にググツと迫ると 文明開化が見えてくる」を開催いたします。

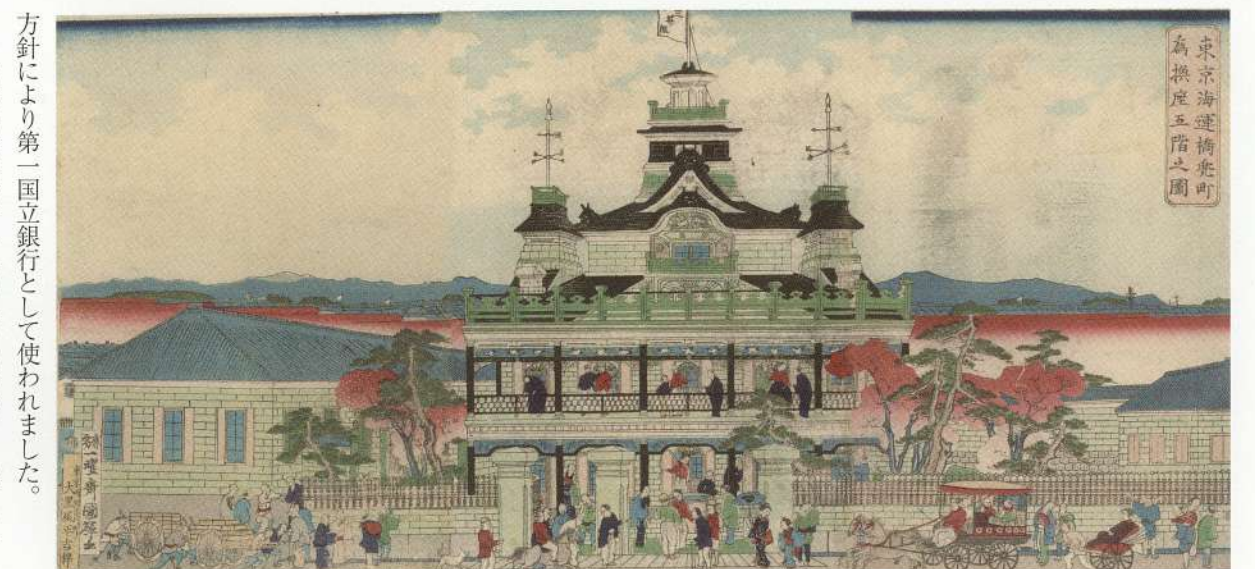
錦絵は江戸時代に誕生した多色摺り木版画で、本年で二五〇年という長い歴史を持ちます。錦絵は国内だけではなく十九世紀にはゴッホやモネといったヨーロッパの芸術家たちにも多大な影響を及ぼし、また国内においては江戸から明治への時代の移り変わりを広く一般に伝える、今日でいうマスメディアの役割を果たしました。ここでは、絵師たちのその時代の変化を伝えようという心意気と、彼らの遊び心にも着目してご紹介いたします。

特に、この紙面では、出品する錦絵「東京海運橋兜町為換座五階之図」を、まるで虫眼鏡を使って見るように、「ググツ」と迫って、皆様にご紹介いたします。迫ってご覧いただくことで、小さな画面では気付けなかった、人々の様子、建物の細部、大きく時代が移り変わろうとしている街の様子など、多くのことを発見していただけるのではないのでしょうか。錦絵をしっかりとご覧いただくことで、皆様が歴史に興味を持っていただくきっかけにさせていただければ幸いです。

## 東京海運橋兜町為換座五階之図

明治五（一八七二）年 一曜斎国輝画

この絵は、清水組（現・清水建設）二代清水喜助により「三井バンク」として、東京兜町の海運橋の袂（と）に建てられた日本初の銀行建築で、木骨石造に、ペランダや日本屋根及び塔を組み合わせた和洋折衷の擬洋風建築です。建物は完成後、政府の



方針により第一国立銀行として使われました。

この建物が建っていたのは、現在皆さんがニュースなどでよく耳にする兜町（とまごう）です。跡地は現在、高速道路の脇、みずほ銀行兜町支店となっています。絵のタイトルにも入っている海運橋は江戸時

代に架けられた橋で、第一国立銀行が建った当初、真しは写真からもわかる通り、木橋でした。その後、明治八年に石橋に架け替えられました。海運橋の袂に建てられたこの第一国立銀行は文明



地図1 明治改正東京全図 明治22年（1889）年より



写真1 当時の海運橋



写真2 海運橋跡地（銀行は高速道路の向こう側）

開化のシンボルとして、多くの錦絵に描かれています。特に小林清親が明治九（一八七六）年に発表した作品（図1）は有名で、石橋に架け替えられた直後の海運橋が描かれています。昭和三十七（一九六二）年に楓川は埋め立てられ、現在は川の姿は跡形もなく、橋の親柱だけが隣地の公園に保存されています（写真2）。

この錦絵には、全く同じ構図の作品が存在しています（後掲り、図3）。二つの作品を見比べながら、ググツと迫っていくことにしましょう。

まずはお城の天守閣に似せて造られた中央の塔屋の両脇の二つの塔の風見をご覧ください。左の風見（図3）には「E・W・S・N」と現在でもよく目にする英語の東西南北



図1



図2

の頭文字が描かれています。右の風見（図4）には、「ひ・に・み・き」という平仮名ものが掲げられています。これは「東西南北」を平仮名で「ひ（がし）・に（し）・み（なみ）・き（た）」と表したものになっています。図2の後掲りの作品の風見は摺りが乱雑なのか、紙の継ぎ目であるためなのか理由はわかりませんが、風見の先端の文字は左半分（図5）しかありません。続いて中央の塔屋に掲げられている旗に注目して

いかがでしたか。一つの絵からも多くの情報を読み取ることが出来ます。今回の展示では、錦絵だけではなく古地図、古写真もあわせて展示しています。色々な資料を絡めて改めて錦絵をご覧いただくことで、これまで見えてこなかった「何か」を必ず見つけていただけたらと思います。

風呂敷包みを背負い、地方からやって来た人が、建物の威容に驚いている様子、築地の居留地に滞在している外国人でしょうか、犬を連れて散歩している人もいます。実はこの犬の名前はわかっています。この犬の名前は「カメ」です。縁起がいい「亀」ではありません。西欧人が犬を呼ぶ時に「Come on」と呼んでいるのを、日本人は「カメ」という名前を呼んでいると勘違いしていたそうです。西欧人の連れてくる犬の名前が全部「カメ」だなんて！なんと不思議なことかと思つたことでしょうか。

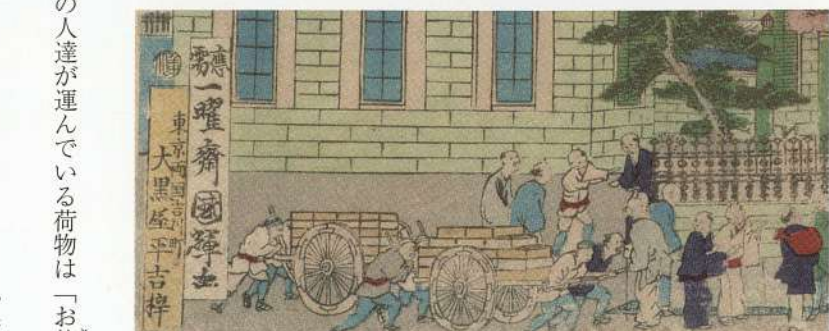


図11

画面左下に、大八車で重たそうな何かを運んでいる様子(図11)が描かれています。大八車は、大人八人分の代わりをするということで「代八車」と書かれました。この人達が運んでいる荷物は「お札」でしょうか。

左端の一曜斎国輝の名前の横に押されている印鑑のようなものは「改印」と呼ばれるもので、出版を許可された年月を示すものです。この作品は改印から明治五(一八七二)年五月に出版が許可されたもので、建物竣工の翌月ですから、非常に話題性が高い建物であったことがわかります。絵師の名前は「一曜斎国輝」と記されています。一曜斎国輝は初代歌川国貞に学んだ二代歌川国輝のことで、相撲絵や文明開化の様子を描くのが得意であった浮世絵師です。

みましよう。「三井組」(図6)という文字が書かれているのがわかりますね。第一国立銀行として使用される前この建物は、三井組の所有でしたから、この絵は建物の落成直後から明治六(一八七三)年八月一日に第一国立銀行として開業するまでの間の様子を描いたと考えられます。



図7



図8

雨水貯め、火災の際などの消火用に使用されたもので明治村の東山梨郡役所の脇にも展示されています。往来に目をやってみましょう。行き交う人々の服装は洋装もあれば和装もいますが足元に注目。和装の人の足元には草履が描かれています。洋装の人の履物は省略されています(図10)。「靴」がまだまだ見慣れなかつた当時、絵師にとっては「靴」を描くことは難しかったのでしょうか。



図6

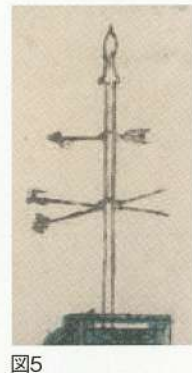


図5

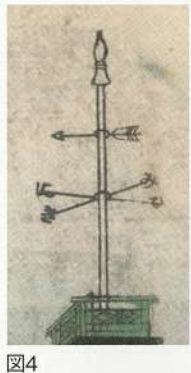


図4

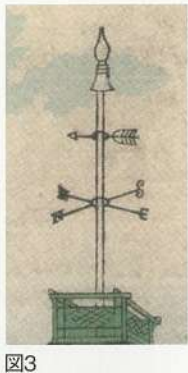


図3



図9

「おやおや、危ない！二階のベランダの手摺りを持ち越えてる人(図9)がいます。普通はベランダの端に手摺が設けられますが、この錦絵を見る限りは、ベランダの中央あたりに手摺が設置されており、手摺の外側を人が行き来しているようです。物見遊山の人々がベランダから外の景色を眺めに来ているようにも見えます。安全面に加えて、セキリユティの厳しい今日の銀行では想像もつかない光景です。玄関前に置かれた桶の中には「水」が貯められています。「天水桶」(図10)と言って、

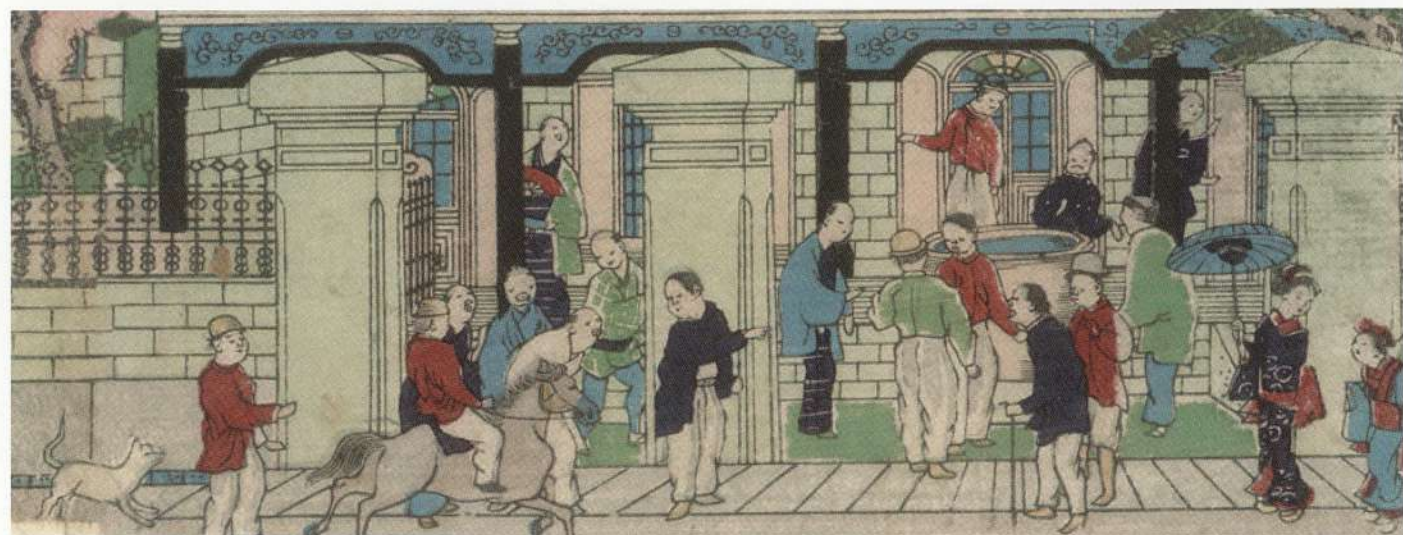


図10

# 札幌電話交換局 探検

札幌電話交換局には、電話交換局ならではの特徴や札幌だからこそその工夫があります。建物内を探検して特徴をつかみましょう。

## A 自動電話室

自動電話（現在の公衆電話）を置いていた部屋です。電話交換局が大通りにあったことから「大通り電話所」とも呼ばれていました。

## B 防火扉

明治43年の増築時に取り付けられた防火シャッターで、「専売品を注文し、東京から取り寄せた」と建物仕様書に記録されています。建物自体の壁が約50cmと厚いのも火災が多かった札幌ならではの工夫です。



## C 床の違い

玄関ホールから奥に進むと板張りの一段高い床になります。これは公衆の場所として市民が入ることができる場所と、事務室などの職員が働く場所との区切りとなっています。古写真を見ると、板間の部屋は靴を脱いで上がっていたようです。



## D 荷揚げ口

階段を上ったすぐの場所に荷揚げ口があります。1階の天井板と2階の床板を外すと1階と2階がつながり、電話交換機を容易に運び入れることができました。



## E 交換室

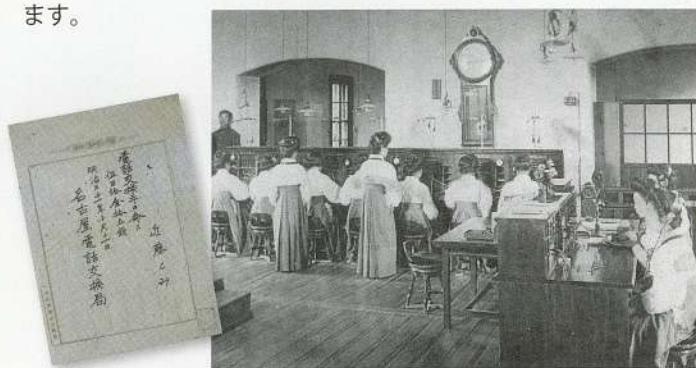
小さな部屋は畳み敷きの女子交換室、L字型の大きな部屋はオイルクロス（厚手の布に桐油などを塗ったもの）を敷いた交換室と、定期調査や通信障害の調査などを行なう試験室として使われていました。

## ⑥ 札幌ってどんな街？— 電話の普及と開拓の街

明治時代、国が主体となって北海道の開拓が始まりました。この開拓事業によって創設された札幌は、当初鬱蒼とした景色が広がっていました。この札幌の街が北海道の中心となっていく歴史を、札幌における電信電話の普及とともにご紹介します。

## ⑤ 電話交換手ってどんなお仕事？

旧女子交換室とされる部屋を利用して、電話の創業とともに新たに生まれた「電話交換手」という職業についてご紹介します。どういった人が、どうすればその職業に就くことができたのか？どんな仕事をしていたのか？という疑問を解決することができます。

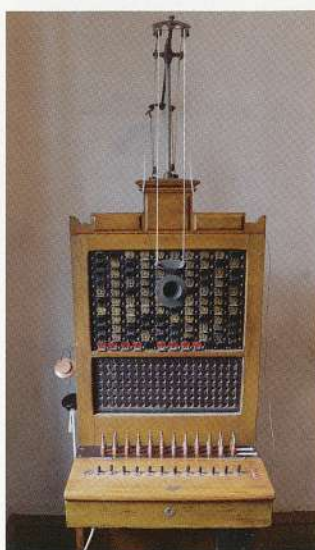


電話交換手の辞令 札幌中央郵便局の女子交換室（大正時代）

## ④ 明治の電話をつなげてみよう

建物の名前にもなっている「電話交換」という、電話をつなぐ仕組みについて、手動式電話交換機と磁石式電話機の実演とともにご紹介いたします。受話器をとってから相手につながるまで、どのような作業が行なわれていたのかを是非ご覧ください。

〈電話交換機の実演〉～12月6日（日）まで各回約15分程度、資料に触れていただける電話交換機の実演を行います。  
平日／①11:00～ ②13:00～  
土日祝日／①13:00～ ②15:00～



手動式電話交換機

# 札幌電話交換局常設展示リニューアル

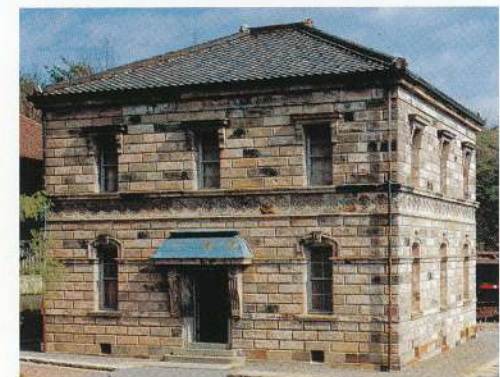
## 展示内容が新しくなりました

つなげる「こえ」  
つながる「きおく」



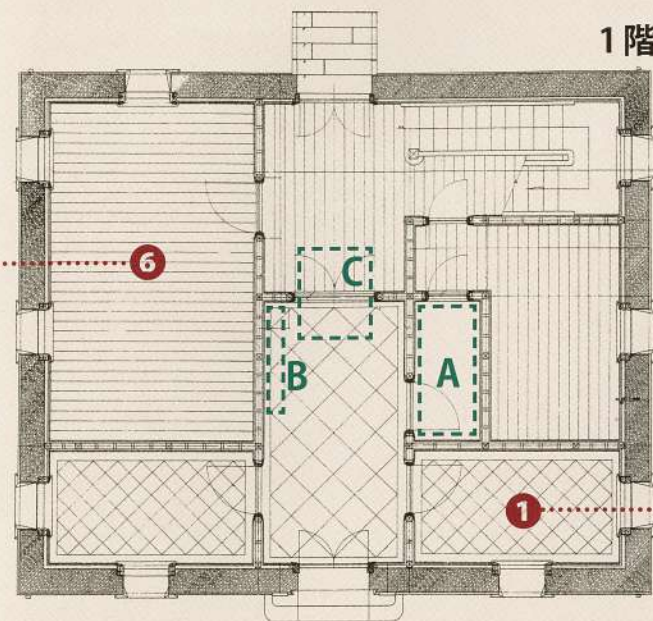
九月十二日（土）より、明治村の中で最初に移築が決まった建物である札幌電話交換局（二丁目二十一番地）の常設展示が新しくなりました。つなげる「こえ」、つながる「きおく」をテーマに、電話機の歴史や電話交換の仕組みを、初公開となる二階展示室でご紹介します。また一階では、札幌電話交換局が創建されてから現在に至るまでの歴史と、建物の故郷である札幌の街が開拓されてゆく過程を電話の普及とともにご覧いただけます。

この紙面では展示内容を、導線の順にコーナーごとの展示資料画像を交えながらご紹介します。

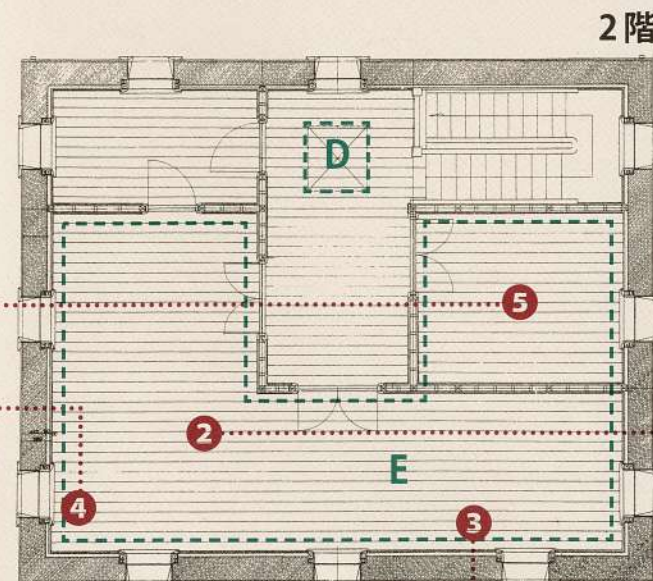


札幌電話交換局

## 札幌電話交換局の展示図



1階



2階

## ① 札幌電話交換局ってどんな建物？

札幌で取り壊しが決まったこの建物は、明治村の調査・解体によって初めて創建当初の姿が明らかになりました。札幌電話交換局が創建されてから明治村に移築され、重要文化財に指定されるまでのあゆみをご紹介します。



解体中の札幌電話交換局

## ② 電話機で時間旅行！

昭和40年代に登場し、当時画期的であった電話機であるプッシュホンから、札幌電話交換局が建てられた、明治30年前後に登場したデルビル磁石式電話機までの代表的な機種の実物資料の特徴や変遷をご紹介します。加えてそれぞれの電話機が登場した当時の、電話加入者数や世の中の動きも併せてご紹介。電話機が使われていた時代背景も知ることができます。



プッシュホン

デルビル甲号磁石式電話機（新型）

## ③ 黒電話を使ってみよう！

大人にとっては懐かしく、子どもにとっては目新しいこの電話は、通称「黒電話」と呼ばれています。日常生活ではなかなか見ることが少なくなったこの黒電話で実際に通話を体験していただけます。




600型自動式電話機

秋の催しもの  
9▶11月

あかりの明治村

10月31日(土)～11月29日(日)の土日祝  
開催日は19時まで延長開村  
※一部エリアは16時まで ※雨天時は延長開村中止の場合あり

**開村50th記念 明治村あかりアート展**  
「明治」をテーマに、全国のお客様よりご応募いただいた陶磁器作品のなかから展示いたします。趣向を凝らした「あかりのオブジェ」が歴史的建造物をやわらかく灯します。




開催日/10月31日(土)～11月29日(日)の土日祝  
時間/16:00～18:30  
会場/西園寺公望別邸「坐漁荘」  
協力/土岐津陶磁器工業協同組合、愛知県陶磁器工業協同組合、とこなめ焼協同組合

**聖ザビエル天主堂×プロジェクションマッピング**  
ご好評につき今年も開催! 白亜の教会堂がバーチャル・アートで彩られます。



開催日/10月31日(土)～11月29日(日)の土日祝  
時間/日没～19:00 協力/名古屋造形大学

**品川燈台特別公開**  
通常非公開の品川燈台内部を特別公開。夜間には明治時代の灯籠の点灯実演を行います。また、両日とも海上保安庁公式キャラ「うみまる」が皆さまをお出迎えします!



開催日/10月31日(土)、11月1日(日)  
協力/第四管区海上保安本部 公益社団法人燈光会 大日本アガ(株)

**5丁目イルミネーション&ライトアップあかりの競演**  
多種多様な灯りで幻想的な空間を創り出します。今年の見どころは、修理後初めてライトアップされる「隅田川新大橋」と往時の雰囲気再現した「光の籠柱」です。



開催日/10月31日(土)～11月29日(日)の土日祝  
時間/日没～19:00

**紅葉ライトアップ**  
夜に浮かび上がる紅葉と建物の競演をお楽しみください。



開催日/11月14日(土)、15日(日)、21日(土)～23日(月・祝)、28日(土)、29日(日)  
会場/1丁目(西郷従道邸付近)  
時間/日没～19:00

**錦秋の美酒**  
ライトアップされた美しい紅葉を愛でながら、美味しいお酒と肴をお楽しみください。



開催日/11月14日(土)、15日(日)、21日(土)～23日(月・祝)、28日(土)、29日(日)  
会場/西郷従道邸前  
時間/16:00～19:00 ※ラストオーダー/18:30

明治村\*開村50周年記念

**特別展 錦絵にググツと迫ると 文明開化が見えてくる**  
9月12日(土)～12月6日(日)

今年はいくつもの錦絵が江戸時代に誕生してから250年。明治時代の錦絵には移りかわりゆく街の様子を描いたものも少なくありませんが、すべて絵師たちが実際に目にしたものばかりではありません。お～っと、銀行のペランダの手摺りをよじ登っているなんて! 他にもググツと錦絵に迫ってみると不思議な光景や、その当時の時代の最先端のものが見えてくるかも?! 詳細は2ページをご覧ください。

**SL9号運行再開記念特別イベント**

**SL9号・12号 重連運転&プッシュプル運転**  
SL9号(米製・明治45年輸入)とSL12号(英製・明治7年輸入)が、東京駅→名古屋駅をプッシュプル運転、名古屋駅→東京駅を重連運転します。普段見ることのできない2機の姿に大興奮!

**SL転車体験**  
重さ20t以上するSLの転車作業にチャレンジしてみよう!  
開催日/10月12日(月・祝)、24日(土)  
会場/SL東京駅・転車台  
時間/①10:50～②11:20～③12:55～④13:25～⑤13:55～  
定員/各回6名  
対象/小・中学生(小学校4年生以上)


開催日/10月11日(日)・25日(日)  
時間/12:35(SL東京駅発)～15:55(SL名古屋駅発)の各発車時間  
料金/SL片道券 大人500円 小学生300円



きもので歩く明治村

11月は和服でご来村の方は入村料半額!

**女性限定 きもの着付け体験**  
開催日/11月14日(土)、15日(日)、21日(土)～23日(月・祝)  
会場/学習院長官舎  
時間/13:00～16:30  
料金/1,000円(90分)  
協力/一般財団法人民族衣装文化普及協会



**特別企画 西園寺公望没75年 西園寺公望「美」と「知」**

昭和15年11月に西園寺公望が亡くなってから75年。明治村所蔵の西園寺公望の遺愛品の中から、煎茶道具や屏風など彼の「美意識」を偲ぶものに加え、今回は愛読書も展示いたします。

期間/10月31日(土)～11月29日(日)  
会場/西園寺公望別邸「坐漁荘」  
時間/12:00～15:00 (あかりの明治村開催日は～18:30)

**「坐漁荘」特別呈茶**  
明治村茶会の際にしか、お茶をお召し上がることができない「坐漁荘」で特製のお菓子とお茶をお楽しみください。

期間/会期中の土日祝日  
時間/12:00～15:00  
料金/一服 600円

※期間中、建物ガイドは中止させていただきます。  
写真はイメージです。

**企画展 ひとくちで幸せ! 天使がくれたおかしの物語**

キャラメルやチョコレートといった皆さんが大好きな西洋菓子のルーツは明治時代にあります。当時の人々は見慣れないハイカラなおかしにさぞかし驚いたことでしょう。この企画展ではパッケージの移り変わりや宣伝用のポスターを紹介するとともに子どもたちに夢を与え続けるチョコボールのキャンペーン景品「おもちゃのキャンツメ」も展示します。

期間/9月12日(土)～12月6日(日)  
会場/千早赤阪小学校講堂  
料金/一人200円 ※小学生以下は無料  
協力/森永製菓株式会社

**ワークショップ 世界にひとつだけの お菓子箱を作ろう!**

お菓子箱に好きなシールを貼り、自分だけのお菓子箱が作れるワークショップです。(参加者多数の場合は整理券を配布させていただきます。)

参加無料

開催日/9月12日(土) 11月3日(祝) 12月6日(日)  
時間/①13:00～②15:00～  
対象/展示を見学した小学生

**伝統芸能公演 at 呉服座**

◆邦楽アンサンブルコンサート  
開催日/11月3日(火・祝)  
時間/①13:00～②15:00～  
出演/山口晃司

◆津軽三味線  
開催日/11月28日(土)  
時間/①13:00～②15:00～  
出演/山口晃司

◆阿波踊り  
開催日/11月15日(日) 22日(日)  
出演/阿波踊り太閤連

明治村\*開村50周年記念 **偉人の愛したグルメ～秋の巻～**  
夏目漱石や幸田露伴など、明治の文豪ゆかりのグルメをご用意しました。

**漱石のスリランカカレー**  
(明治の洋食屋 オムライス&グリル浪漫亭) 1,200円

**漱石の秋の甘味プレート**  
(明治の洋食屋 オムライス&グリル浪漫亭) 750円 ※数量限定

**露伴の牛タン塩茹**  
(明治の洋食屋 オムライス&グリル浪漫亭) 1,700円 ※数量限定

**茂吉の鯉井**  
(めん処 なごや庵) 1,200円

**「漱石の思ひ出」御膳**  
(和食処 碧水亭) 1,500円



お問い合わせ先 <http://www.meijimura.com> または 0568-67-0314

# A La Meiji-mura

## 暮らしの中のあかり

●三重県庁舎二階よろず体験コーナー  
(1丁目13番地)

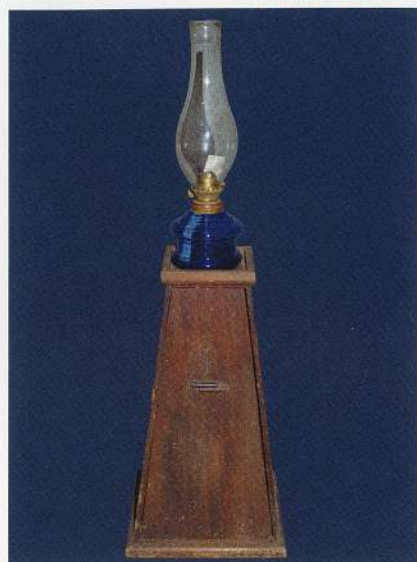


写真1 台ランプ

石油、電気、ガスなど、様々なエネルギーの利用が始まった明治時代。こうしたエネルギーは、産業や乗物だけではなく、当時の暮らしの中にあかりにも変化をもたらしました。一丁目十三番地の三重県庁舎二階「暮らしのよろず体験コーナー」では、当時の人々が使用した灯器の明るさを体験することができます。

明治時代は、ろうそくや動植物の油を利用した行灯といった、日本に古くから伝わるあかりも引き続き使用されましたが、石油や電気を利用した新たなあかりは、これまでにない明るさを当時の人々にもたらしました。

### 石油のあかり

石油ランプは、幕末に外国から輸入され、明治時代に入ってから国産のランプが製造されるようになりました。体験では吊りランプが使用されていますが、明治時代には高さのある台にランプを取り付けて、畳や板の間に直接置いて使うことができる「台ランプ」といった、日本

### 電気のあかり

明治十五(一八八二)年の十一月一日、東京・銀座で東京電燈会社の宣伝として

い地方都市では石油ランプが街路灯として使われることもありましたが、ガスが利用できることもありました。

また、原料となる石油は明治四(一八七二)年に日本初の石油会社が設立されるなど、国内でも販売が行われていました(写真2)。

独特のランプも登場しました(写真1)。

石油ランプは、このように家庭内で使用されることもありました(写真1)。

が、ガスが利用できることもありました(写真1)。

日本初の電灯がともされました。そのあかりは夜にも関わらず昼間のようだと評判になり、毎夜見物人が訪れたそうです。この時使われた電灯は「アーク灯」と呼ばれるもので、光は強いものの、寿命は短く、電源装置も高価なことから、家庭用としては使うことができませんでした。

体験で使用されているような一般家庭でも使われた白熱電球は、明治十二(一八七九)年、エジソンによって発明された後、明治二十二(一八八九)年に工部大学の藤岡市助によって、初めて日本で製造されました。

電気のあかりは、明るさと便利さや安全性からガスや石油のあかりにかわり、日本全国を席巻していきましました。明治二十四(一八九二)年の団団珍聞には、電気のあかりが広ま



図1 団団珍聞 (明治24 (1891)年)

この体験コーナーの他にも、二丁目十八番地の東松家住宅、三丁目二十六番地の幸田露伴住宅「蝸牛庵」では、復元されたエジソン電球で当時のあかりを再現しています。当時のあかりが放つ、やわらかい光を、建物の中でも体感してみたいかがでしょうか。

\*

参考文献  
・湯本家「図説明治事物起源事典」平成八(一九九六)年 柏書房  
・「灯りの情景」と人の物語 平成二一(二〇〇九)年 川崎市民ミュージアム  
・「あかり 国指定重要有形民俗文化財灯火具資料図録」平成九(一九九七)年 財団法人日本のあかり博物館



写真2 看板 (蝸牛印石油特約販売店)

## 街を照らしたガスのあかり

●三重県庁舎前(1丁目13番地)



写真1 三重県庁舎前ガス灯

写真2 その他のガス灯

明治村に設置されているガス灯には、二種類あることをご存知ですか?一丁目十三番地の三重県庁舎前にあるガス灯は、灯器の部分は取りかえていますが、明治時代の神戸で使用されたものです(写真1)。

その他村内にあるガス灯は、このガス灯をもとに、谷口吉郎初代館長によって設計されたものです(写真2)。

神戸のガス灯は、明治五(一八七二)年に設置された横浜の外国人居留地に続き、東京・銀座より一ヶ月早い明治七(一八七四)年十一月に設置されました(図1)。明治六(一八七三)年、イギリス人であるH・セント・ジョン・ブラウンなど居留地の商



図1 神戸外国人居留地の錦絵

人たちに日本人を加えて設立された、「兵庫瓦斯株式会社」によって、ガス灯の設置事業が開始されました。

世界で最初にガスの街路灯が設置されたのはイギリスでした。一七九二(寛政四)年、スコットランド生まれの発明家W・マードックによって、石炭を蒸し焼きにして発生するガスを利用したものが実用化され、一八一二(文化九)年には、ロンドンで世界で初めて街路照明のためにガス事業が起ります。日本で

人たちに日本人を加えて設立された、「兵庫瓦斯株式会社」によって、ガス灯の設置事業が開始されました。

世界で最初にガスの街路灯が設置されたのはイギリスでした。一七九二(寛政四)年、スコットランド生まれの発明家W・マードックによって、石炭を蒸し焼きにして発生するガスを利用したものが実用化され、一八一二(文化九)年には、ロンドンで世界で初めて街路照明のためにガス事業が起ります。日本で



写真3 ガス灯の基部

灯の特徴が反映されており、なかでも特徴的なのが、灯器下部から左右に突き出した腕木のような部分です(写真3)。これは、本来装飾としてあったものと思われませんが、当時日本では「かんざし」と呼ばれていました。決まった時間にガス灯を回って点灯・消灯をしていた「点消方」と呼ばれた人たちが仕事をするとともに、

一方その他の新たに製作されたガス灯の造型には、当時日本で見られたガス灯の基部(写真3)が使用されていたことが分かります(写真3)。



図2 東京銀座の錦絵

は、イギリスから遅れること六十年、フランス人技師A・プレグラの指導により横浜と東京で初めてのガス灯が設置されました(図2)。

その時使用されたガス灯は、ガス事業の祖であるイギリス製のものでした。明治村にある神戸のガス灯を見ると、ガス灯の基部に、「LONDON」という刻印(写真3)が見られることから、使用された年代ははっきりしませんが、神戸でもイギリス製のガス灯が使用されていたことが分かります(写真3)。

持ってきたはしごをこの「かんざし」に立てかけて、足場として利用して作業していたそうです。

このように明治村にある二種類のガス灯は、日本にガス灯が伝わった歴史や、当時の人々がどのように使っていたのかを私たちに伝えてくれます。

ガス灯に使用されたガスは、石炭ガスのほか、メタンガス、アセチレンガスもありました。この秋開催される「あかりの明治村」では、明治期から昭和四十年代まで灯台で使用された、アセチレンガス灯のレプリカによる点灯実演が三丁目二十九番地の品川燈台前で行われます。注2 灯器は異なりますが、ガスを用いた明治のあかりをぜひ間近でご覧下さい。

注1 「LONDON」という刻印の上部に社名と思われる刻印も見られますが、現在判読できていません。今後調査をすすめていきます。

注2 実演は十月三十一日(土)、十一月一日(日)の二日間となります。

参考文献  
・神木哲男・崎山昌廣編「神戸居留地の三世紀」平成五(一九九三)年 神戸新聞総合出版センター  
・堀博・小出史郎共訳「ジャパン・クロニクル」昭和三十五(一九八〇)年 神戸新聞総合出版センター



写真4 灯器下の「かんざし」